

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用
---------	-------------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	文化財課長 丹羽野 裕	電話番号	0852-22-6468
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	古代文化の郷「出雲」整備事業
目的	(1) 対象 県民・市町村 (2) 意図 出雲地方に存在する貴重な文化遺産を、野外博物館としてネットワーク化を図り、物語性のある歴史探訪ルートとして活用してもらう。
事業概要	風土記の丘地内に所在する「山代二子塚」「山代郷北新造院」「出雲国府跡」をはじめ、出雲地域の特色ある史跡等を総合的に整備することにより、野外博物館としてネットワーク化を図り、物語性のある歴史探訪ルートを設定して古代ロマンあふれるゾーンとして活用する。

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 文化財活用度	目標値		700,000.0	700,000.0	700,000.0	700,000.0	人
	式・定義	取組目標値						
	文化財の見学活用度数（出雲地域の代表的な史跡等（松江城など8箇所）の来訪者数	実績値	714,219.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
	式・定義	取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	236	39,486
うち一般財源(千円)	236	3,271

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

出雲部の史跡整備及び史跡間のネットワーク化を図るための中心的事業である風土記の丘地内整備事業において、その核となる史跡出雲国府跡の整備を目指す（今年度は26年度に引き続き、政庁域の土地買い上げ事業を実施する）。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 出雲国府跡の政庁周辺の発掘調査を再開し、出雲国府跡整備の前提となる遺構の状況や国府中心域の変遷の一端を明らかにすることができた。
- 活用事業として風土記の丘まちあるきプログラムを開催し、風土記の丘地内における歴史探訪ルートの構築や人材育成、ルートガイドのノウハウを蓄積することができた。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

歴史探訪ルートの整備など、史跡を見学するための仕組み作りが不十分

### ②困っている状況が発生している「原因」

- 史跡出雲国府跡を核とする風土記の丘地内での史跡整備や歴史探訪ルート整備が不十分
- 効果的な情報発信の不足

### ③原因を解消するための「課題」

- 整備に向けての継続的な発掘調査の実施及び調査成果の公開
- 効果的な情報発信のため、風土記の丘地内を中心とした古代出雲ストーリーの構築
- 公有地化した未整備地の効果的な活用

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 史跡の追加指定や公有地化の実施により、政庁域を中心とする継続的な発掘調査に取り組み、活用事業と連携しつつ整備に向けた環境作りを行う。
- 風土記の丘や出雲国分寺跡の調査・整備活用に取り組む松江市との連携により、当該地を核とした古代出雲ストーリーづくりを進め、ストーリーに沿った歴史探訪ルートを設定する。
- 公有地化した未整備地においては、当面の活用を図るため最低限の説明板設置やガイドブック作成等を進める。

## 9. 追加評価（任意記載）

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。